

學 會

☆經濟學史學會西部部會例會

第四回九月例會は、去る九月二十六日日本学において盛大に開催せられた。十三号颱風の近畿全域を襲った翌日のこととして交通事故その他の被害で会員の参集が危ぶまれたが、多数の出席のもとに終始熱心な討議がかわされたことに敬意を表したい。出席御希望の会員の方が予期しない災でせつかくの機会を失われたことがおしくてならない。左に例會の内容を附記しておこう。

報 告

- 一、フオイエルバッハと市民革命 京都大学 平井俊彦氏
- 一、商品の端緒的二重性 立命館大学 梯 明秀氏

經商研究会例會報

第三十二回(九月十五日)

近世における在郷商人の質商經營について 足立政男

〔要旨〕

近世經濟社会における在郷商人の活躍とその影響について、当該社会における農民の經濟生活を最も切実に具現して

る実例として畿内在郷質商「油屋三郎兵衛をあげ、その質貨と利貸について質物・流質・利息及び商業圈を通じて經營形態を調査、研究し、その社会における經濟的役割と影響を实証すると同時に畿内商人の超藩的反映的、且つ多角的經營の特徴を遺憾なく發揮している点を明かにした。

第二十三回(九月二十二日) 消費水準の計測における一方法

関 弥 三 郎

、(要旨)

実質消費支出金額の変動の測定による消費水準の計測は、平均家計に就てのみなされるのが普通であるため、それに平均家計を中心とする上下家計の消費水準の相異の程度を加味する事が必要である。消費水準の差異は消費構造の相異に現れるため、次の $\delta$ の値の比較を併せ行えばよいであろう。茲に $\delta$ はAllen-Bowleyの $\delta$ を利用し
$$\delta = \sqrt{\frac{M(k-\delta)}{20}}$$
(但さし $M(k-\delta)$ で定義され、上下家計の支出構造が平均家計のそれより乖離する程 $\delta$ の値は0より大となるため、支出構造の平均家計に対する不均等度の指標とする事が出来るのである。

第三十四回(十月六日)

会計学上に所謂費用収益対応の原則の意味 —— 發生主義と實現主義の一側面として —— 津ノ国長四郎

第三十五回(十月二十日)

世界棉花生産と東南アジア貿易構造の変移 森 川 信